英語カリキュラムに関するアンケート調査

長　井　克　己（大学教育基盤センター教授）

１．はじめに

英語によるコミュニケーション能力の育成を教育目標として香川大学の全学共通英語科目で開講している Communicative English Ⅰ / Ⅱ / Ⅲ / Ⅳが適切に機能しているかどうかを検証する目的で、毎年学生及び教員にアンケートを依頼している。本稿は 2015 年度調査の結果を報告する。

２．１年生調査

１年生は医学部医学科を上級クラス、医学部看護学科、工学部、農学部を初級クラス、それ以外を中級クラスとして授業を行っている。担当教員の選択による教科書の週１回の授業と、TOEIC リスニングとリーディングの e-learning を並行して行い、前期末に全員が TOEIC を受験する。後期クラスは TOEIC スコアにより各学部内で３レベルの習熟度別編成を行っている。以下に 2015 年７月に Communicative English Ⅰ受講生が全員受験した TOEIC と同時に実施したアンケート調査の結果を示す。1244 名の受験者から有効な回答 1207（回収率 97%）を得た。

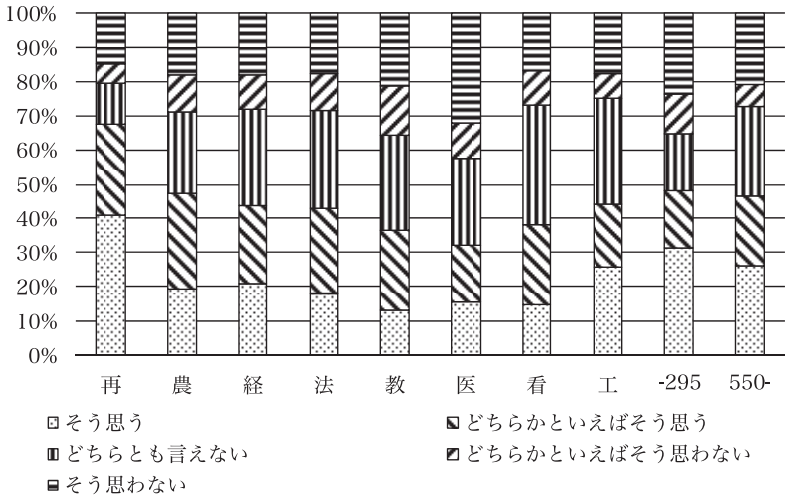

図１　前期も習熟度別クラス編成にすべきだ

図１は後期から実施している学部内での習熟度別クラス編成を前期でも実施してほしいかどうかを尋ねたものであり、横軸の「再」は再履修学生を、「-295」は TOEIC テストのスコアが 300 点未満であった全学部の学生を、「550-」は同じく 500 点以上であった学生を示している。１年生前期は学部

の学籍番号順クラスとなっており、学部ごとの習熟度別編成を未経験の学生に意見を聞いたことになる。再履修生に肯定的意見が、医学部医学科生に否定的意見が多い傾向である。同一の設問を習熟度別編成を導入後の後期にも実施の予定であるので、その結果を比較したい。

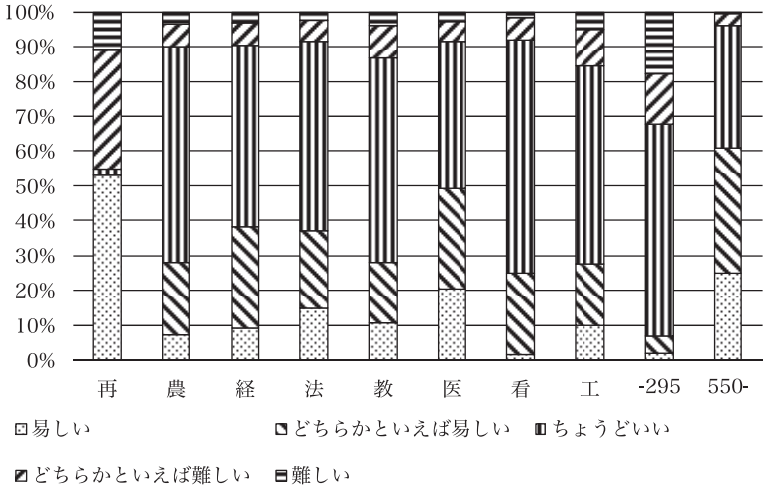

図２　TOEIC 用教科書と e-learning の難易度

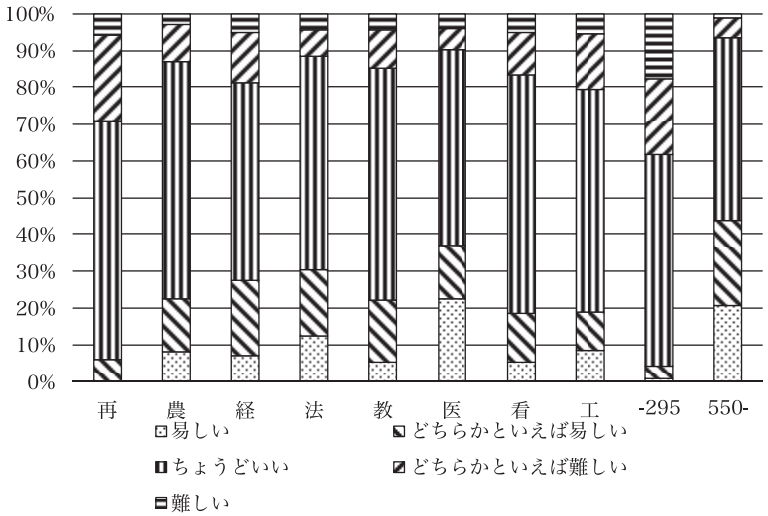

図３　クラス別教科書の難易度

１年生は TOEIC のリスニングとリーディングを主に扱った教科書と、担当教員の授業用教科書の２冊を使用するが、TOEIC 対策用教科書について訪ねたのが図２、担当教員の授業用教科書について尋ねたのが図３である。TOEIC 用教科書はその内容から e-learning 教材が作成されているので、TOEIC 用教科書の難易度は e-learning 教材の難易度と同一であるとみて差し支えない。医学科ではほぼ半数が「易しい」と感じているなど再履修学生を除きほぼ TOEIC スコアと対応する結果である。図３から教員の対面授業の難易度は適切と判断されていることと比較し、図２の全学統一教材を用いることに限界があることを思わせる結果である。

３．２年生調査

2015 年７月に Communicative English Ⅲ受講生と担当教員にアンケートを依頼した。有効回答数は 852（回収率 77%）であった。

図４では１年生と同様に習熟度別編成クラスへの意見を尋ねた。２年生は１年後期と２年前期の２回、習熟度別クラス編成を経験している。選択肢「良い」以外は否定的な選択肢なので一概に「良い」が少ないとは結論できない。

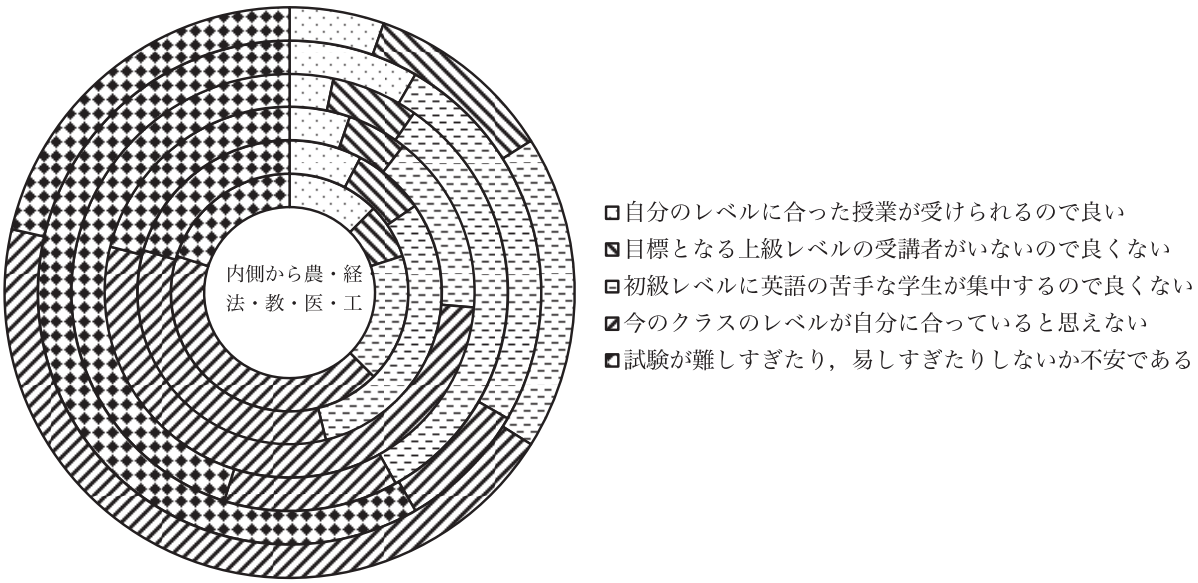

図４　習熟度別クラスについて

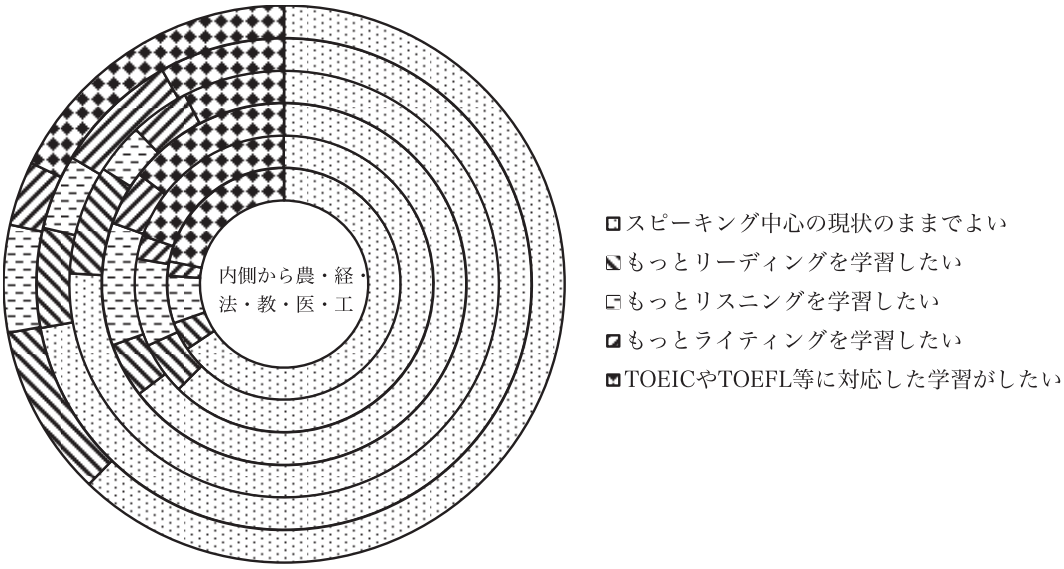

図５　CE Ⅲがスピーキングを目標としていることについて

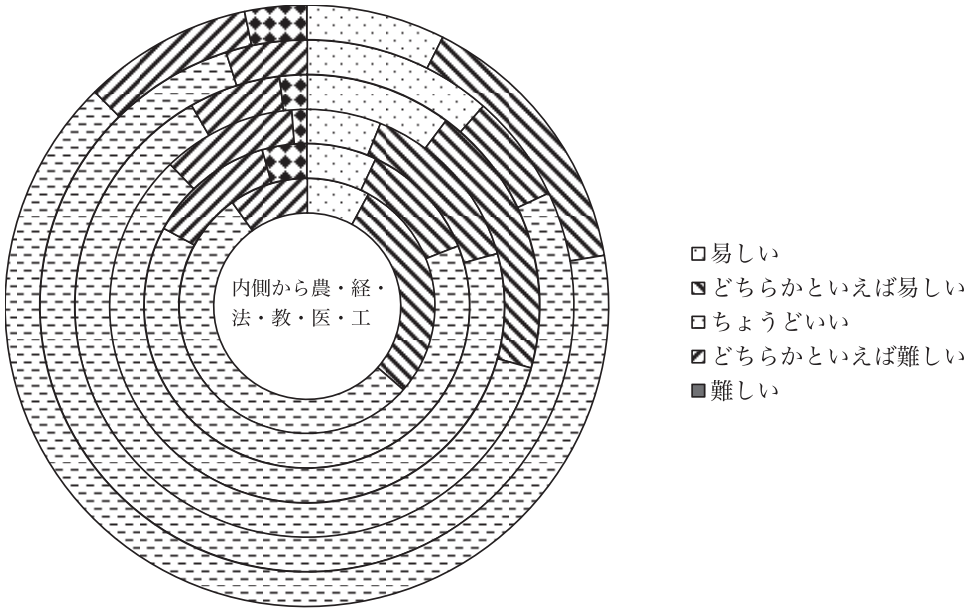

図６　授業と教科書の難易度について

図４の習熟度別クラス編成への２年生の意見については、「クラスのレベルが自分に合っているとは思えない」学生が法・工学部で多く、「試験が難しすぎたり易しすぎたりしないか不安」な学生が教育・医学部医学科で多い。図５で Communicative English Ⅲの目標について尋ねたところ、大方はスピーキングとプレゼンテーションの学習に賛成である。ライティングも学びたいという希望が医学部医学科で多いのは、Communicative English Ⅳが開講されないので仕方ない面もあろう。TOEIC や TOEFL 等の資格試験の準備をしてほしいという学生は農・経済・工学部に多い傾向がある。図６の授業と教科書の難易度については大多数が「ちょうど良い」と回答しており、各担当教員が適切なレベルで授業を実施できる現行の Communicative English Ⅲの良い点が出ていると思われる。

４．２年生と担当教員の自由記述から

以下に２年生自由記述欄の内容を列記する。

・スピーチが多く楽しいです。
・英会話がしたい。
・英語で会話するのは楽しい。
・人前で英語で話す機会を設けてくださっているのはありがたいです。
・最後のプレゼンで質問がしたかったです。
・自由に英語で留学生や先生と話す時間も設けて欲しいです。
・２年生でも TOEIC を受ける機会を作って欲しい。
・リンガポルタは時間の無駄だと思ってやっていました。
・先生による成績の差をなくしてほしい。

・成績でクラスを分けるのはよいと思うが、授業内容が各先生でバラバラであり、テストの難易度や評価基準は成績順にはなっていないと思う。
・クラス分けによって秀や優等の取りやすさが決まるので困る。
・TOEIC の点数が高い学生がスピーキングが得意とは限らない。
・易しすぎるクラスと難しすぎるクラスがある。
・もう少し厳しく。
・英語も前期に２単位にしてほしいです。
・時間割分けるのならば、自分で選びたい。
・授業によりスピーチ回数や宿題の量が異なるのはあまりよくないと思う。
・評価基準が明白なので良かった。
・初めてスピーキング中心の授業で外国人の先生で緊張していましたが、楽しく授業が受けれました。
・習熟度別になっているのを初めて知った。
・自分がどのレベルのクラスなのかよく分からなかった。
・法学部は留学すると４年で卒業しにくくなる。４年で卒業できるような留学制度を作って欲しい。
・もっと留学の制度を充実させて欲しい。
・もう少し英語の授業を受けたかった。
・TOEIC を受けていなくて単位認定の生徒を一番下のクラスに入れるのはどうか。

以下は教員によるアンケート自由記述欄の内容である。

（１）Communicative English Ⅲの内容（スピーキングを主に扱い、学生に発表を求める）について

・スピーキング中心の現状のままで良い。
・よいと思います。学生は話すことに慣れていませんので。
・現状のままでよい。学生が主体的に活動できている。もちろん、教員側の準備や授業の進め方には、かなりの工夫がいります。
・文系の習熟度の低いクラスを教えているが、意外にクラスの雰囲気はよく、発表に抵抗はあまりないようだ。このレベルについてはスピーキングのクラスは向いているのかもしれない。
・自分の言いたいことを適切な言葉で表現し、効果的に相手に伝える技術は、学生が身につけるべき技術の一つであり、その意味で、スピーチないしプレゼンテーションに特化したこの授業は重要であると思います。
・私のクラスでは、学生にスピーチの原稿を書かせ、誤った表現などを何度も改めさせ、最後にそれを壇上で発表させています。原稿を見ずに、目線や声のトーンに気を配りつつ、人前で、しかも外国語でスピーチをするという体験は、人生に一度くらいあってもよいのかな... とは思います。
・スピーキングの授業をしていても、三部構成法・つなぎ言葉・topic sentence などの説明が不可欠なので、ライティングとの相互関連性や不可分さを感じます。しかしながら、１年間を通じてスピーキングとライティングを組み合わせた授業を行うよりも、半期ずつ一技能に焦点をあてるほうが、目的がはっきりし効果的であると思います。ただし前期はライティングに重点を置き各技能を身につけた上で、後期はそれに加えて Physical, Oral, Visual 面を教えるスピーキングに重点をおくほうが、教師にとっても学生にとっても、スムーズな流れのような気がします。

・スピーキングに関しては、学生個人の人格形成過程と関係し、自分に自信が持てない学生は、日本語・英語いずれにも発話力に欠けるような気がします。故に、言語学習以前の問題もスピーキングには大きく関係しているので、強制的な発話要求には注意が必要な気がします。

（２）その他、現行カリキュラム全般（「TOEIC 全員年２回受験」「週１回少人数クラス」「習熟度別クラス」「e-learning（リンガポルタ）併用」等について

・習熟度別クラスは受講生の英語力のレベルが分かっているので、教えやすい。是非継続してほしい。
・仕事柄「週１回少人数クラス」と「習熟度別クラス」に関してしか分かりませんが、それらに関しては、よいと思います。
・現行のままでよいと思います。CEI-Ⅳまでそれぞれの目的が明確であり、漠然とした英語の授業より達成感が得られると思います。Ⅲについては、半期全体を見据えた上での、各回の授業の入念な計画が必要であったと痛感しております。「スピーチの経験は有意義であった」との学生からの感想も多く、今後私自身、教師としての努力や工夫を大いに行うべきだと実感しております。
・習熟度別クラスでは、下位３分の１のクラスの学生には授業の最初に complex をいかに取り除くかの工夫がその後の授業の成否に大きく影響を与える気がします。（習熟度別には賛成）
・週１回少人数のクラスがあったら学生のしゃべる機会が増えると思います。
・TOEIC は２年生以降も受験を義務づければよいと思います。１年生の授業は TOEIC のテキストと主テキストを使用しますが、中途半端になりがちです。TOEIC の授業と「Reading と Listening」クラスを分離した方がよいと思います。最近の１年生の英語力が下がってきているのでは... と心配しています。たぶん高校の授業が効果を発揮していないのではないでしょうか。
・これは意見と言うよりボヤキですが、大学生であれば誰しも何らかの外国語の授業を取らなければならない理由とは、そもそも何なのでしょう。

５．おわりに

文部科学省 2013 年に発表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」は主に中等教育までの英語教育を対象としていたが、そのために立ち上げた有識者会議の提言「今後の英語教育の改善・充実方策について」（文部科学省 2014）は「高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善」として高等教育への言及がある。そこでは４技能の英語力・学習状況の調査・分析を行い、その結果を指導改善と英語力向上に生かすことが要請されている。本学の全学共通科目英語科目では１年次の Communicative English Ⅰ / Ⅱで TOEIC テストを受験しながらリスニングやリーディングに重心を置き、２年次の Communicative English Ⅲでスピーキングを、Communicative English Ⅳでライティングを主なテーマに設定していることは妥当かと思われる。しかし本報告のデータから明らかになったように、習熟度別編成のクラスを難しすぎる、易しすぎると感じている学生が存在したり、評価の公平性に不安を持ったりしているのも事実である。そもそも少人数クラスや習熟度別クラスが学力を決定する要因とはなりえないのではとの疑念も消えてはいない（川口 2011、北條 2011）。引き続きアンケートや成績の分析を行い、基盤センターとして次に何ができるかを検討していきたいと考えている。

参考文献

川口俊明（2011）「日本の学力研究の現状と課題」『日本労働研究雑誌』614 号、６－15 頁。

北條雅一（2011）「学力の決定要因」『日本労働研究雑誌』614 号、16 － 27 頁。

中室牧子（2015）『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン。

文部科学省（2014）「今後の英語教育の改善・充実方策について（答申）」（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm）＜ 2015 年 12 月 1 日アクセス＞

文部科学省（2013）「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」について」（http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/1342458.htm）＜ 2015 年 12 月 1 日アクセス＞